

Course number		U-LAS70 10001 SJ50					
Course title (and course title in English)		ILASセミナー : 1 × 2 × 3 × 4 = サステイナブル ILAS Seminar :1x2x3x4=Sustainable		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Field Science Education and Research Center Professor,TOKUCHI NAOKO Field Science Education and Research Center Program-Specific Assistant Professor,MANQING ZHANG		
Group		Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style		seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2025・First semester		Quota (Freshman)	15 (15)
Target year		1st year students	Eligible students	For all majors		Days and periods	Thu.5
Classroom		(North Campus)				Language of instruction	Japanese
Keyword		森里海連環学 / レジリエンス / 中山間地 / well-being					
[Overview and purpose of the course]							
<p>現在、都市に人口が集中し、その暮らしに自然を感じることは少なくなっています。そして、あらゆる生活の基盤は自然の創造物に依存しているのに、それらが産み出される現場（森や川や海）や過程との解離は大きくなっています。その結果、自然がないがしろにされ、地球温暖化や生物多様性の喪失など多くの環境問題が生じ、加えて、地域ごとに多様であった里山を囲んだ暮らしは画一化し、暮らしの中に存在した様々な多様性も失われています。これらの結果、現在のような暮らしが持続できないのではないかと考えられています。</p> <p>このセミナーでは森に着目し、木材を調達するところからスタートし、製材加工・製造、デザイン、マーケティングといった、木材が森から伐採されて製品となって私たちの手に届くまでのプロセスから、自然と暮らしのつながり、そして持続可能性について考えます。また、フィールド実習では、地域で森の価値を捉え直す活動続ける株式会社飛驒の森でクマは踊る（ヒダクマ）やモノづくりに携わる職人さんに協力していただき、実際にモノ作りを行います。</p> <p>これらの活動を通じて消費者や研究者ではなく実践者の立場から、地域や産業の様々な課題と向き合い、持続可能な暮らしについて再検討し、自分なりの持続可能性について考えるきっかけにしたいと思います。自然や林業に興味がある人やデザインや建築に興味がある人等、理系・文系問わず参加してください。</p>							
[Course objectives]							
<p>森里海、さらには人と自然が連環することの意義について理解する。</p> <p>地域の自然資源、文化的資源などの情報を収集、整理し、利活用から持続可能性を考えられるようになる。</p>							
[Course schedule and contents])							
<p>講義予定 各課題についてそれぞれ1から2回を予定している。また、週末を利用して上賀茂試験地、さらに飛驒市（6月21-22日）でのフィールド実習を行う。授業回数は講義・実習・フィードバックを含め全15回とする。</p> <p>持続可能な社会への動き 持続可能性についての座学・意見交換 上賀茂試験地での里山実習（半日程度） 広葉樹を用いた地域産業の視察とモノづくり（6月21-22日で飛驒市を予定。）</p>							
Continue to ILASセミナー : 1 × 2 × 3 × 4 = サステイナブル(2)							

ILASセミナー : 1 x 2 x 3 x 4 = サステイナブル(2)

持続可能性を伝える方法 (3 回程度)
持続可能とはどういうことか・意見交換

[Course requirements]

同時に開講している森里海連環学系科目「森里海連環学I」ならびに「森里海連環学II」を受講することが望ましい。

[Evaluation methods and policy]

各回でのディスカッションへの参加 (50 点)、毎回の小レポート・最終レポート (50 点) などから総合的に判断する。

[Textbooks]

Instructed during class

[References, etc.]

(References, etc.)

森林立地学会 『森のバランス』 (東海大学出版会)

山下 洋 編 『森里海連環学』 (京都大学学術出版会)

(Related URL)

<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/>(フィールド科学教育研究センターHP)

<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/kamigamo/>(上賀茂試験地HP)

[Study outside of class (preparation and review)]

フィールドセンターのHPなどを通じて、森林に関する情報を得ておくこと。

[Other information (office hours, etc.)]

学生教育研究災害傷害保険に各自必ず加入しておくこと。

実習開催時期により、成績の登録が前期に間に合わない場合があります。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

上賀茂試験地での実習の交通費 (1000 円程度) が必要です。